

トピックスを追って

レビー小体型認知症②【検査と治療】

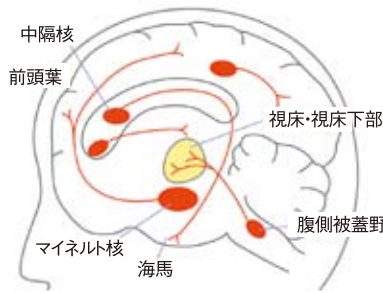
レビー小体型認知症の検査として、PET（ペット）検査という特殊な装置で脳内のアセチルコリン神経の働きを調べる検査があります。

アセチルコリン増加で認知症の症状軽減

アセチルコリン神経は記憶と密接に関係することが分かっており、図1は脳内のアセチルコリン神経の分布を示しています。認知症治療薬として投与されるのは、アセチルコリンを分解する酵素の働きを妨げる阻害薬です。脳内のアセチルコリンの働きを高め、認知症を改善する効果があります。

PET検査では、脳内のアセチルコリン神経の機能を調べることが可

【図1】中枢コリン系の分布



能です（保険診療外）。アルツハイマー病型認知症ではマイネルト基底核から大脳皮質に分布する神経が認められ、大脳皮質でのアセチルコリンが低下します。

レビー小体型認知症はアセチルコリン大幅減

図2の写真は、パーキンソン病・レビー小体型認知症・アルツハイマー病型認知症患者のPET検査によるアセチルコリン神経機能の結果を示しています。脳の真ん中は基底核と呼ばれる場所で、赤い部分はアセチルコリンが高濃度に存在していることを示します（稀にはこれよりも低濃度）。レビー小体型は、赤、緑の範囲が小さくなっており、パーキンソン病やアルツハイマー病型よりもアセチルコリン神経の働きが低下していることが分かります。

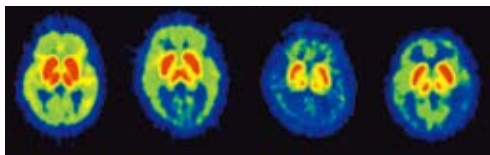
レビー小体型は、アルツハイマー病型よりもアセチルコリン神経の障

害が強いため、認知症治療薬の効果が高くなります。パーキンソン病でもアセチルコリン神経の働きは低下していますが、レビー小体型ほどひどくはありません。また、レビー小体型では、漢方薬の抑肝散が有効との報告があります。抑肝散は、漢方薬の抑肝散が有効と

の報告があります。抑肝散は、漢方薬の抑肝散が有効と

【図2】PET検査による脳内のアセチルコリン神経の活動

※放射線総合医学研究所/平野博士提供



通常の人 パーキンソン病 レビー小体型 アルツハイマー病型